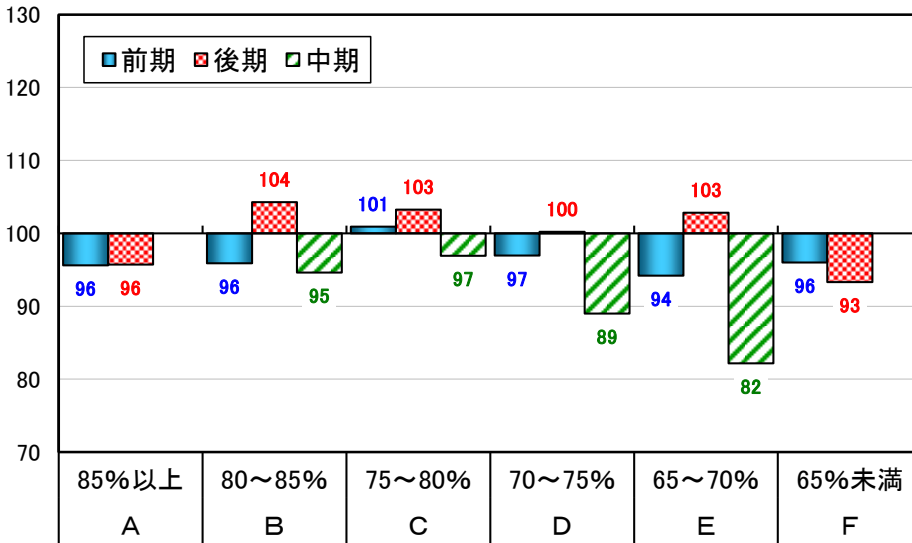


## 2021 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

### ◎データネット目標ライン別志願者数集計

#### □前期はCグループを除きやや減少、後期はA・Fグループでやや減少



左記のグラフは、2021 年度のデータネット(駿台予備学校/ベネッセコーポレーション主催、共通テスト自己採点集計)において、募集単位ごとに設定された合格目標ライン(B判定ライン、合格可能性60%)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で得点率により6つのグループ分けを行い、日程別に各グループの志願者数の増減を前年度対比指数で示したものです。

前期全体では(96)のやや減少ですが、Cグループが微増な以外は、他のグループはやや減少の範囲に収まっており、合格目標ラインの違いによる大きな差はありません。共通テストの平均点アップにより、概ね当初の志望に従って出願が行われたことがうかがえます。詳しく見ていくと、Aグループ(96)はやや減少で、横浜国立大のこのグループに含まれる学部的大幅減少と、秋田大、福井大、高知大などの医学科の前年度の反動による減少が影響しました。Bグループ(96)もやや減少で、東京外国語大、横浜国立大、筑波大などのこのグループに含まれる学部の減少が影響しました。Cグループ(103)はやや増加ですが、宮崎大のこのグループに含まれる学部的大幅増加や難関大看護系などの増加が目立ちました。

後期全体では(101)ですが、AグループとFグループがやや減少ですが、Bグループ~Eグループは増加傾向で、近年見られたような後期出願を断念といった、極端な弱気な動向は見られません。これは、共通テスト平均点アップと翌年以降に大きな入試改革を控えていないという入試を取り巻く環境変化の影響と思われる。詳しく見ていくと、Aグループ(96)とFグループ(93)はやや減少です。Bグループ(104)のやや増加は、このグループに含まれる学部で県立広島大の激増や新潟大、岡山大といった大学的大幅増加が影響しました。

公立大のみの中期は、すべてのグループで減少しており、Dグループ、Eグループでは10%以上も減少しています。先にも述べたように、共通テストを文系3教科型で利用する大学もあることから、この文系3教科型の平均点ダウンも影響しました。なお、もともと対象大学が少なく募集人員も少ないため、特定大学に志願者が集中しやすく指数が大きく変化する傾向があることから、あくまでも参考としてご覧ください。